



38  
世田山



24 大元神社

25 黒谷庵と庄内尋常小学校黒谷分校跡



19 本谷温泉館

20 医王院

20 金比羅大権現

(東予西中学校区参照)







## 1 光明寺の桜と椿

光明寺の歴史は古く、孝徳天皇の白雉4年（653年）の建立といわれる。

境内にある桜（ソメイヨシノ）は、「東予地域緑を守り育てる会」の保存樹木に指定されており、見事な枝振りと華やかな花で有名である。

また、境内の北寄りには椿の大木があり、とても大きな花で「着物の袂が隠れてしまうほどだ」ということに由来する“ソデカクシ”の名前を持つ。これほど大きい幹を持つ“ソデカクシ”はめったにないという。これも「東予地域緑を守り育てる会」の保存樹木。

## 2 三島神社の石灯籠

三島神社は「おみしまさん」の名で親しまれ、三芳村鎮守の氏神様である。本殿前の石灯籠は大明神川氾濫の被害を今に伝えるものとして知られている。洪水により流出したため、中台には鳥居の石柱が代用されている。

## 3 大明神川の松並木と桜並木

大明神川は旧東予市の真ん中を流れる2級河川。以前は旧壬生川町と旧三芳町の境界川。典型的な天井川であることから、この流域が古くから拓けていたことを知ることができる。

その土手に植樹された松並木はその数2,000本とも言われ、行き交う人たちに木陰を提供するとともに、地域のシンボリックな風景であった。近年、マツクイムシ被害でその多くが枯れてしまったことは残念。往時を偲ぶことのできる風景がわずかに残っている。

その松並木に替わって、戦後地元有志によって植樹された桜の木が立派に成長し、春には見事な桜並木が出現するようになった。

## 4 大明神川トンネル

JR予讃線が典型的な天井川である大明神川を渡るとき、“川の下”を走る。全国的にも数例しかない、川底を走る鉄道トンネル（全長65m）である。マニアの間ではかなり有名で、写真撮影をしている人を時折見かける。

また、トンネルの南側（高田地区）には湧水があり、初夏の頃にはホタルが乱舞する。

## 5 開木のお地藏さん

六反地地区には「開木のお地藏さん」と呼ばれる石仏がある。江戸時代、「享保の大飢饉」と呼ばれる飢饉があり、県内で4,000人が餓死したと伝えられている。このことに心を痛めたこの地区の藤原何某が、河原津の石屋に作らせたのが、この地藏菩薩だとされている。



三島神社の石灯籠



大明神川の松並木



大明神川トンネル





三芳祝い太鼓

## 6 三芳祝い太鼓

三芳小学校の児童約20名で演奏する和太鼓で、昭和60年に発足した「わらべ歌のグループ」（地域に伝承されている遊びやわらべ歌を学ぶグループ）がその前身。赤と黒のハッピに小さなねじり鉢巻を頭に載せ、全員的心を一つにして打つ太鼓の音は聞く人に感動を与える。小学生グループのため、活動の範囲は西条市内に限られているが、秋祭りや各種イベントには大人気を博している。

安藤記代さんの指導。西条市芸術文化奨励賞受賞。

## 7 三芳駅開通式の歌

伊予三芳駅が開通したのは、大正12年10月1日のこと。その開通を祝って多彩な祝賀行事が盛大に催されたことが、当時の新聞などで知られている。その式典のために作られたのが「三芳駅開通式の歌」で、小学校の先生方で組織された楽隊の演奏に合わせて、児童・住民がこの歌を歌って列車を出迎えたという。その後、忘れ去られようとしていたこの歌は、地元住民の努力と愛大助教授の協力により採譜され、楽譜と歌詞が小冊子・「ふるさと三芳」に収録されている。鉄道開通当時の住民の感情をうかがい知ることのできる貴重な資料である。

## 8 さえの神さんと朝鮮帰国記念碑

「さえ」は、「<sup>さいざ</sup>塞る」という言葉が語源とされ、道祖神の一種だといわれている。現在も祠がお祀りされており、地元の人の手で守られている。敷地内の楠は「東予地域緑を守り育てる会」の保存樹木。

その大楠の根元に建てられているのが「朝鮮帰国記念碑」で、昭和34年10月1日、三芳地区をはじめとして周桑地域で生活していた在日朝鮮人が北朝鮮（朝鮮人民共和国）へ帰国するために、三芳駅を旅立ったときに建てられた。元は三芳駅にあったものを現在地に移転したもの。

## 9 毘沙門堂

毘沙門堂には毘沙門天が祀られており、別名「多聞天」とも言われる。その名のとおり、「いろいろな願いを聞き入れてくれる神様」として信仰されている。

毘沙門堂がある場所は、戦国時代以前、三芳地区の領主であった行本氏の菩提寺・保福寺の跡地といわれ、地続きのJA周桑三芳支所の敷地内には、行本但馬の守の供養塔が残されている。



さえの神さんと朝鮮帰国記念碑



毘沙門堂



## 10 弘福寺の乳房地蔵

弘福寺は「日切大師」「お日切さん」の愛称で親しまれている。この「日切地蔵菩薩」には乳房がついており、男性的、中性的な仏像が多い中、大変珍しいもので、安産、子育て、子授けのお地蔵さんとして信奉されている。境内の楠の木も「東予地域緑を守り育てる会」の保存樹木。

## 11 渡辺スエ女の碑

渡辺スエは弘化3年（1846年）楠に生まれ、後に三芳村渡辺小市の妻となるが、夫がリュウマチを患うこととなる。その病身の夫を抱え看病に励みつつ、身を粉にして働き三人の子どもを育て上げた貞女として、戦前の修身の教科書に取り上げられた女性である。

彼女の死後25年を経て、昭和3年、この表彰碑が建てられた。碑に刻まれている文面は、陸軍大将・秋山好古の手によるものである。

## 12 宮内神社と椿の森

宮内神社は、庄内、三芳、楠地区の郷社。文安6年（1449年）の棟札があり、旧東予市では最古のものといわれている。秋祭りには、火の神・水の神・大山祇の神の三体の神輿が出る。

また、境内には300本以上の椿が群生し、1mを超えるものも相当数ある。特に大きいものは、目通り1.3m、樹高20m程もあり、樹齢200年以上と推定される。これらは全て藪椿で、純白や絞りのものも発見されている。

## 13 青野岩平

明治5年、旦之上に生まれる。28歳で庄内村村長になり、農村の不況対策や村有林植林、大明神川の水紛争、四阪島煙害問題の解決などに当たった。文教政策では、県下に誇る学舎を建設し、周桑病院の設立に奔走した。

周桑病院には頌徳碑、庄内公民館前庭には胸像が建つ。

## 14 みたまの塔

昭和30年5月11日、庄内小学校6年生が高松方面に修学旅行に旅立った。その日、高松港沖で一隻の宇高連絡船が衝突沈没し、多くの人命が失われた。いわゆる“紫雲丸事故”である。庄内小学校児童29名とPTA会長もその犠牲になった。

遺族と地元有志の手で、犠牲者の慰霊のために「みたまの塔」ほととぎすが建てられた。芥川永氏の製作。「三十のみたまの来ませ時鳥」



渡辺スエ女の碑

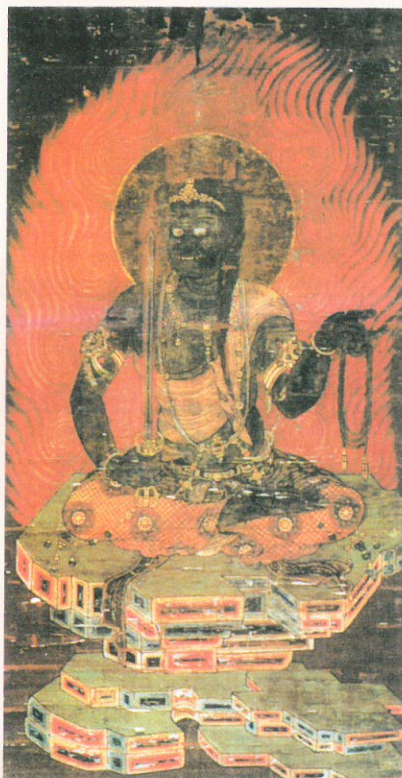


青野岩平の胸像



みたまの塔





十地院の密教仏画・「不動明王像」

## 15 十地院と密教仏画

白鳳13年（673年）、天武天皇の勅願寺として大黒山の裾盆地に建立された寺院で、開祖は秦量上人、本尊は薬師瑠璃光如来である。貞治2年（1363年）、細川頼之の軍勢により諸堂が焼き払われたが、第7代住職・宥真大徳はあらかじめこのことを予知され、事前に本尊や仏像・仏画などを秘匿していたため、危うく焼失を免れた。安永元年（1772年）には、第24代住職・宥道法印が現在地に移転建立した。

寺宝として、河野家から寄進された仏画32幅があり、中でも、“目引不動”として信仰の高かった不動明王像や、猫が描かれている仏涅槃図などは見事である。

## 16 庄内の石積田園風景

高縄山系に源を発する大明神川は、平野部に出る辺りで河岸段丘を形成する。庄内・旦之上地区には、その地形と川石を利用した石積の畦で区画された独特の田園風景が見られる。良質の米（＝“旦米”）が採れることで有名。



庄内の石積田園風景

## 17 象ヶ森城址（吉岡城址）

標高180mの象ヶ森に残る、南北朝時代から戦国時代にかけての山城跡。北側から見ると、象がうづくまった姿に見えることからこの名がついたという。山頂からは道前平野が一望でき、旧西条市街や新居浜、四国山脈まで遠望できる。

元亀年間（1570年～1573年）には、河野18将の一人、櫛部兼氏・兼久の居城となる。天正7年（1579年）に長宗我部元親の侵攻にあい、新居高尾城主・金子元宅もといまが攻め入り、落城。兼氏親子は河之内の近田城に逃れるが、翌年、再び夜討を受け自害する。天正13年（1585年）には羽柴秀吉の四国侵攻で再度落城。後に取り壊され廃城となった。

## 18 円満寺と奈良原神社

円満寺の開基は宝亀年間（770年頃）といわれ、伊予の国主河野玉澄の嫡子・益男が本尊虚空菩薩を安置し、寺院を建立したと伝えられる。開祖は現達上人。近くには、十一面観音を本尊とする歡喜寺がある。

尾根伝いに約1km登ると、標高216mの所に奈良原神社がある。現達上人の開山の折に、奈良原権現を勧請したものである。後に、越智郡畑寺から再度勧請した。現存の建物は昭和47年に建立されたもので、牛馬の神様として信仰が厚く、農民の生活にとって大切な役割を果たしてきた。



円満寺



## 19 本谷温泉

古くは舒明天皇や斉明天皇が湯治されたという伝説がある、“伊予の三湯”の一つ（他は道後と鈍川）。弱アルカリ単純泉で、神経痛や皮膚病に効能。

平成13年に露天風呂や宿泊施設が整備され利用しやすくなったが、なお、山あいの静かな温泉郷の風情を残している。隣接する本谷公園も四季折々に楽しめ、市民の憩いの場となっている。

8月には「本谷温泉祭り」。



本谷温泉館

## 20 医王院と金比羅大権現

光仁天皇の頃（770年～781年）、伊予の国主河野玉澄の嫡子で周布郡司であった益男が建立。本尊は薬師如来、開祖は恵良上人である。

貞治年間（1362年～1363年）に兵火により全焼したが、山内氏、僧河氏、近田氏の三城主によって再建された。本堂横の金比羅大権現は慶長年間（1596年～1615年）に松山城主加藤嘉明が一郡一祠により勧請したもので、元は山頂にあったが、明治初年に現在の場所に遷された。



権木4号古墳

## 21 権木（しいのき）4号古墳

且之上・福成寺・実報寺の山麓一帯には、多くの古墳群が見られるが、権木原はその中心地で、数十基の円墳があった。

そのうち、権木4号古墳は県立養鶏試験場事務所の南側にある。玄室の奥壁は破壊されているが、その他の石組みはしっかりしている。旧東予市内の古墳の中では最大級のもので、当時この地を支配していた豪族の墳墓と推定される。6世紀頃のもので、横穴式古墳である。

## 22 実報寺の一樹桜

寛政7年、この地を訪れた俳人小林一茶が「遠山と見しは是也花一木」と詠んだとされる、エドヒガンの古木。ソメイヨシノより色が淡く、開花の時期が少し早い。



実報寺の一樹桜

## 23 皇子神社

通称“おうじさん”、にやくいちおうじ若一王子の略で、熊野権現の子神である。おおささきのみこと かるのおおいらつめ大雀命と軽大女娘の2神を祀り、安産、疫病避けの神として信仰されてきた。

貞応2年（1223年）四之宮氏の祖先とされる小千孝元が勧請したとも、文中2年（1373年）伊予守河野通定の勧請とも言われている。





大元神社の大杉

## 24 大元神社の大杉

通称「黒谷の大杉」。黒谷地区は今治市朝倉地区との境の山間部にあり、平家の落人集落といわれる。その集落の大元神社には樹齢800年、根回り10m、高さ30mの大杉があり、地域信仰の対象ともなっている。

## 25 黒谷庵と庄内尋常小学校黒谷分校跡

傾田川北岸の高台に、本尊地藏菩薩、脇仏馬頭観音・弘法大師を祀る黒谷庵がある。庵は昭和38年に現在地に移され、平成元年には地域の人々の浄財により改築や仏像の修理が行われた。現在地は、明治23年、庄内尋常小学校ができた時に設けられた、黒谷分校場の跡である。一基の石碑が建てられ、昔の面影を偲ぶことができる。



庄内尋常小学校黒谷分校跡

## 26 生目八幡神社

丹下平右衛門清継は、日向の国（宮崎県）の生目八幡神社から神様を勧請して帰り、自宅の西側の山頂に生目八幡神社を創立した。眼病の神様として信仰が篤く、願をかけて治った人は自分の年の数だけ“めの字”を書いて、その壁に貼っていたという。

## 27 自安橋

豊田源左衛門忠顕は元和5年（1619年）楠に生まれた。大雨のたびに橋のない北川を渡るのに難儀する人々を見て、私財を投じて石の橋を架け、村人や旅人から大変喜ばれた。晩年は僧になり、自安と称した。村人はこの橋を「自安橋」と名付け、彼の徳を讃えたという。

豊田家の前には供山寺跡と知足庵があり、宝篋印塔と馬頭観音菩薩が有名である。

## 28 臼井御来迎（うすいのごらいこう）

楠河地区の南端にある臼井御来迎。弘法大師が弟子の真如を連れて当地巡錫の折り、岸井・臼井・曾良田井の三霊水を発見し、この地を三井村と改名したとされる。こんこんと清水のあふれ出る所に仏の御来迎が拝され、信仰されている。四国八十八カ所番外札所でもある。



臼井御来迎



### 29 国道196号線沿いの菜の花畑

近年、早春の頃になると、国道196号線と東予運動公園の間の田んぼが、目にも鮮やかな黄色のじゅうたんを敷き詰めたような一面の菜の花畑になり、この地域に春の訪れを告げる風物詩になりつつある。

桜などと違って比較的長い期間楽しめ、国道からも見えるので、運動公園や今治にご用の節に…ただし、交通量が多いので、事故にはくれぐれも注意を。



国道196号線沿いの菜の花畑

### 30 東予運動公園

燧灘に面する干拓地を造成して整備された、敷地18 haの総合運動公園。旧東予市が昭和55年に着工し、テニスコート、プール、天然芝の球技場（サッカー、ラグビー等）、野球場のほか、多目的グラウンドや市民の森などがあり、市民のスポーツ活動が盛んに行われている。全天候型の屋内運動場の建設も決まり、一層の施設充実が図られることになっている。

また、毎年1月の第2日曜日に行われる「凧揚げ大会」は恒例行事として定着し、遠く県外にも知られるようになってきた。



大崎龍神社の夏祭り

### 31 磯辺神社

祭神は鱧ふかであるという。古くから漁民の信仰が篤く、不漁で困ったとき、ここに願をかけて豊漁を得たという言い伝えが残っている。

### 32 大崎龍神社のおかげん

河原津地区は漁村として発展してきた。海の神に感謝し、豊漁祈願、海上安全を願う大崎龍神社の夏祭りは旧暦6月11日12日に行われる。神輿のお旅所が北東約2 kmの海を隔てた大崎鼻の山頂にある。例祭の夜、神輿はお召し船で海上を巡幸した後、お旅所への宮入が行われ、そこで一泊する。

漁船2隻を併せ、神輿を海上輸送するこの祭りは、周囲の農村の祭りとは趣を異にし、この地区の夏の風物詩となっている。



東予運動公園



河原津海岸の立て干し網





河原津漁港

### 33 河原津漁港

燧灘海域を主な漁場として、刺網、小型底引き網を中心とする、この地方きっての漁業基地。ガザミ（ワタリガニ）、サワラ、シャコ、エビなどの“河原津ブランド”が人気になっている。数年前、日本酒のCMのロケ地に取り上げられた。河原津地区は漁業集落独特の風情が色濃く残っており、趣のあるたたずまいをみせる。

### 34 河原津海岸

四国の水辺八十八ヶ所にも選ばれた、穏やかな遠浅の海と砂浜、干潟。県下でも数少なくなった潮干狩りのできる海岸でもある。近年は、毎年6月に“立て干し網漁”が行われるようになり、家族連れなど多くの人々がこの海岸の自然を満喫できるようになった。

カブトガニの生息地としても有名。



カブトガニ保護活動

### 35 カブトガニ保護活動

2億年以上その形を変えずに生息してきたカブトガニは、旧東予市のシンボルであった。その繁殖地として、河原津一帯の海岸が県の天然記念物の指定を受けている。

一度は見かけなくなっていたこの貴重な生物を復活させようと、「四国カブトガニを守る会」が中心となって、海岸清掃やアマモの植え付け、海岸に注ぐ川の上流部への植林など、環境保護に向けた草の根の運動を展開した。その結果が実を結び、以前に放流した幼虫の成長した姿を近年見ることができるようになった。

カブトガニを守ることは、環境を守ること。その保護活動の広がりこそを大切にすべき。

### 36 休暇村瀬戸内東予

昭和40年に国民休暇村として開設。以来、多くの宿泊客が訪れる人気の宿となっている。夏休み期間などのシーズン中はなかなか予約を入れられない盛況ぶり。近年、全館バリアフリー化の改修を行い、リニューアルした。

地元河原津で上がった魚介類を惜しげもなく使う名物料理“エビカニ三昧”と、伊予三湯の一つ本谷温泉から引く温泉が人気。海拔60mの高台にある自慢の展望風呂からは、多島美の瀬戸内海を一望できる。

日帰り湯も好評。



休暇村瀬戸内東予



### 37 永納山城跡と周辺の遺跡群

河原津海岸を抱くように、西側に位置する標高132mの永納山は、7世紀後半、朝鮮半島情勢の影響を受けて築城された古代山城の遺跡である。平成17年7月には国史跡に指定された。地域でも「永納山古代山城跡の会」を組織し、古代ロマンあふれる山城を盛り上げようと奮闘中。

山頂は瀬戸内海、石鎚山系、道前平野等が一望できる絶好のビューポイントでもあり、より具体的な調査や保存・整備が進めば、歴史と自然に触れあうことのできる場となるはずである。

また、すぐ南の丘陵帯からは、縄文や弥生、古墳時代の遺跡が多く出土しており、縄文時代の海岸線もはっきりしている。

### 38 中世山城跡・世田山と遊歩道

標高339mの世田山は、奇祭“きうり封じ”<sup>せんだんじ</sup>で有名な梅檀寺（世田薬師）の西側の山で、南北朝時代の古戦場跡として有名。「太平記」には、ここでの合戦の様子が詳述されている。1342年から1392年の間に3度の戦が行われ、伊予の守護・大館氏明公他17名が自刃した地である。梅檀寺・奥の院の隣に、武将たちの墓がある。

麓からは旧朝倉村の笠松山へ抜ける遊歩道が整備されており、やや急峻な所もあるが、ゆっくり歩いても約30分あれば山頂に着く。一帯は国立公園に指定されており、その眺望は目を見張るものがある。

遊歩道沿いの竹林の中には古墳時代後期の古墳群などもあり、県道を隔ててすぐ東にある永納山遺跡などとあわせて、ゆっくり散策できる絶好のハイキングコースである。



梅檀寺奥の院の墓所



永納山城跡の全景



第一学区「02101325301」

★ 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

1. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

2. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

3. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

4. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

5. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

6. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

7. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

8. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

9. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり

10. 自然・文化・歴史・産業・観光・教育・福祉・スポーツ・健康・環境・安全・安心・生活・交流・協働・連携・共生・持続可能な地域づくり



宮内神社



象ヶ森城址



河原津海岸



世田薬師